

クラス	Q308	担当教員	堀 美和子
テーマ	発達障害児の理解と支援 ―発達臨床心理学の視点から―		
著書・論文	<著書・論文> 「高機能広汎性発達障害児へのアプローチ」 『21世紀の心理臨床』 ナカニシヤ出版, 2003 「保育園や幼稚園での様子から気になった場合に保育園の中で気をつけること」 『可能性ある子どもたちの医学と心理学』 プレーン出版, 2002		
研究課題等	「自閉症児の“こころ”をはぐくむ―初期の関係性の発達への心理臨床的アプローチ―」 『いのちと向き合うこと・こころを感じること』 ナカニシヤ出版 2013 など 「<研究課題> 高機能広汎性発達障害児の発達援助に関する研究・子どもの心理療法課程の検討 など」		
ゼミナール概要			
キーワード：発達障害児・発達臨床心理・障害児理解			
<p>目的と内容： 主に幼児期から学童期(児童期)の発達障害児に焦点を当てて、自閉症スペクトラム障害やADHDなど発達障害を持つ子ども達の理解と支援について、学習・実践・研究を通して検討していく。もちろん、子どもの生涯発達の観点から青年期や成人期について検討することも含まれる。対象とするのは主に知的障害を伴わない発達障害児であるが、学習や実践においては知的障害や診断などを持たない支援が必要な子どもなどについても積極的に取り組んでもらいたい。ゼミ生の一人一人が発達障害についての実践的な知識をもとに、子どもたちが地域・家庭・学校で自分らしく生きていくために必要な支援を具体的に考えることができるようになることを目的とする。</p> <p>現在、障害児への理解と支援は臨床心理学の各分野でも必須の知識となっている。担当教員の専門も心理学であることからゼミでは、発達臨床“心理学”的な視点から子どもを理解するちからを養ってほしいと考えている。</p>			
<p>授業計画： 前期は文献(メンバーの既得知識や興味によって文献を決めます)を用いて発達障害についての基礎的知識の学習を行い、後期には支援の現場での関わりの経験をゼミメンバーで共有しながらグループディスカッションを通して検討したり、関連するトピックスを深める活動を行う。支援実践は前期から積極的に各自で行うよう推奨する。(14年度までに行った一斉の小学校でのゼミ実習は現在変更を予定している。その他、ゼミメンバーで相談しながらグループワークの実施やアセスメントの方法や活用の仕方の検討、発達障害関連機関の見学、ゲスト講師による講義や実践活動報告などについても考慮していく予定である。</p> <p>また、3年生は関連論文を積極的に読みながら自分自身の問題意識を固め4年次の卒業論文執筆に向けての準備を行うことも求められている。3年では随時、レポートやまとめを行い、ゼミ生相互でそれらについて検討する。4年生では、卒業論文の作成に向けた報告を中心に行いながら各自で執筆をすすめていく。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>堀ゼミのメンバーとなるなら…(毎年同じことを書いています！)</p> <p>求める基本的態度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分から提案し、動き、考えることができること！ ・“ことば”その他で相手に自分を表現することを惜しまないこと！ ・ひとからのメッセージを真摯に受け止める努力をすること！ ・先生に“教えてもらう”のではなく自分で“まなぶ”姿勢を持っていること！ <p>知っていてほしいこと：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害を理解し支援を考えたいと思っているならば専修や将来の進路希望を問いません。様々な視点から検討したいので、障害児に限らず多様な関心を持った学生さんを募集します。(ちなみに堀は教員免許も持っていませんし、特別支援教育の専門家でもありません。心理学の立場から障害児だけでなく発達の・心理的な課題を持った子どもの支援・相談に取り組んでいます) ・ゼミの時間だけではなく、それ以外の時間に行う活動が重要。文章を書くことや、文献を読むこともどんどん求めますのでそのつもりで。 			